

英米文化学会会報

第 64 号

平成 17 年 7 月 15 日版



オアフ島のノース・ショアへ下る道。遠くで波頭が白く碎ける。(撮影：佐野、2001年)

目次

- 大会担当より 英米文化学会 第 23 回大会のお知らせ
- 学術担当より 「英米文化」論文募集
- 財務担当より 収支会計報告と予算案承認報告
- 事務局より 新入会員・住所変更のご紹介

英米文化学会第 23 回大会のお知らせ (担当: 曾村充利理事)

表記の会を下記の要領で開催します。万障お繰り合わせの上、ぜひご出席下さい。

日時：平成 17 年 9 月 10 日(土) 午前 10 時～午後 5 時 午前 9 時 30 分受付開始

場所：法政大学多摩キャンパス百周年記念館国際会議場

〒194-0298 東京都町田市相原 4342

JR 西八王子駅・相原駅、京王線めじろ台駅から法政大学行きバスで 10 分から 20 数分程度

受付開始 9:30

挨拶 英米文化学会会長 高取 清 (文京学院大学)

研究発表 10:00～17:00

1. ディアスポラと帰属 Caryl Phillips *The Nature of Blood* 考

太田垣 聡子 (東京大学大学院)

2. 21 世紀にピカソの《ゲルニカ》を読む

岡崎 真美 (学習院大学)

3. ヴィクトリア / エドワード朝のイギリスにおける柔術ブーム
身体文化・社会ダーウィニズム・帝國的な身体 岡田 桂 (早稲田大学)
4. Rick Shiomi の *Mask Dance* における「仮面」が意味するもの
古木 圭子 (京都学園大学)
5. ラスキンが内包するヴィクトリア朝の特質
塚田 英博 (城西大学)
6. カントリーソング・フォークソングと Eudra Welty の作品に見る狂気と死
田中 健二 (摂南大学)
7. ヘンリー・ジェームズのニューヨーク版と作者像
川口 淑子 (名城大学)
8. 英語読解における文処理と談話処理
後置談話情報は統語的な曖昧性を解消できるのか
寺内 正典 (法政大学)
飯野 厚 (清泉女学院短期大学)
9. Louise Erdrich の小説にみられるイノセンスについて
鶴谷 千寿 (富士常葉大学)

当日会費：一般 500 円 学生 300 円

大会事務局：人間総合科学大学 人間科学部 大東俊一研究室
〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込 1288
Tel: 048-749-6111 (代表)
E-mail: ShunichiDaito@SES-online.jp

懇親会：

百周年記念館ホールにおいて 5 時 20 分から。会費：3000 円
* 百周年記念館には前日からの宿泊 [個室] が可能です。費用：2000 円
[食事別]。希望者は曾村 MitsutoshiSomura@SES-online.jp までお申し込みください。

英米文化学会 2005 年度大会レジュメ

1. ディアスポラと帰属 — Caryl Phillips *The Nature of Blood* 考

太田垣 聡子 (東京大学大学院)

キャリル・フィリップスの小説 *The Nature of Blood* は、ホロコーストを生き延びた若いユダヤ人女性、彼女の叔父でパレスチナにおいて祖国のために闘う人生を選んだ男性、15 世紀のイタリアにおいて迫害を受けるユダヤ人達、16 世紀のヴェネチアに赴任したオセローとおぼしき黒人将軍等の物語で構成されている。これらの物語は時空を超越しており、互いに直接の関連性はない。しかし、ポリフォニックなこれらの語りから浮かび上がってくるのは、「異質な者」が生み出され排除されていくプロセスであり、その結果、人間の尊厳や生命を奪われた人々もしくは帰属場所を失った人々の姿である。故郷を喪失したディアスポラは、常に「よそ者」とされ、自らを語る声も奪われてきた。本発表では、ディアスポラが喪失したもの 主体的語り、帰属場所、人間の尊厳等 に注目することでテキストにおいて「不在の存在」がいかに表象されているかを検証し、これまで語られることのなかった言葉や隠蔽され続けてきたものを読み取ることを試みたい。

2. 21 世紀にピカソの《ゲルニカ》を読む

岡崎 真美 (学習院大学)

ブランド (Anthony Brunt) は、《ゲルニカ》を美術史家の立場から幼児虐殺とも読み取れる可能性も指摘しつつも、黙示録と解釈している。しかし、彼の分析は図像上の考察に限られている。我々には『ゲルニカ』を精神史から分析するというキリスト教図像学からの解釈の必要性が残されている。《ゲルニカ》の思想的背景をティリッヒ (Paul Johannes Tillich) の神学に求めたい。彼は宗教的社会主義を「人間性を疎外し、人間の霊性を奪う歴史における悪魔的な緒力 (貧困、差別、搾取、反ユダヤ主義、全体主義等) との戦い、『实在』の問題で、グローバリズムと普遍主義に通ずる」としている。彼のプロレタリアの危機意識を「無階級社会に人間存在の新しい形式を求める人々の普遍的霊の衝動」、「自己充足的世界に対する預言者の突入で、神の啓示経験」とする神学から考察したい。

3. ヴィクトリア/エドワード朝のイギリスにおける柔術ブーム - 身体文化・社会ダーウィニズム・帝國的な身体

岡田 桂 (早稲田大学スポーツ科学部)

19世紀半から20世紀の初頭にかけて、イギリスではにわかに柔術ブームが沸き起こっていた。柔術は、1900年にE.バートンライトによってパーティツという護身術として紹介されて以降、僅か10年ほどの間に、様々な雑誌をはじめ、コナン・ドイル、バーナード・ショウ、D.H.ロレンスらの文学作品に登場するほど、イギリスの人々の間に定着していった。当初の柔術は、渡英した日本人柔術家たちによって、ミュージックホールでの見せ物としてその歩みを始めたが、直に護身術や健康増進の運動としての価値を見出され、イギリス人たちによる実践として普及していった。本発表では、東洋の小国からもたらされたエキゾチックな格闘技が、なぜ当時のイギリスで受け入れられてゆくことになったのかを、同じく19世紀後半から流行したフィットネス運動の元祖とも言える「身体文化 (physical culture)」の隆盛、および、当時のイギリス社会に大きな影響を与えた社会ダーウィニズムとの関係から考察する。

4. Rick Shiomi の *Mask Dance* における「仮面」が意味するもの

古木 圭子 (京都学園大学)

Rick Shiomi の *Mask Dance* は、ミネソタ州における韓国人養子問題を取り上げた「仮面舞踏劇」である。ミネソタ州には現在多数の韓国人養子が存在するが、Shiomi は、それらの人々の複雑な心情とアイデンティティの危機、白人の両親と韓国人の養子間に存在する亀裂を、ポンサントルチュムと呼ばれる伝統的な韓国仮面舞踏を駆使して表現した。この形式は、韓国の仮面劇の中でもっとも舞踏劇としての要素が濃く、カラフルな衣装とダイナミックな動きが目立つ。このスタイルは、たとえば、日本演劇における仮面の所在が霊界や神界であることとは異なり、あくまで人間界をテーマに、特権階級や社会の腐敗を批判し、皮肉ものである。それは、Shiomi が、内容の深刻さに関わらず、あくまでこの作品を風刺劇として創作し、社会批判としての要素を強調したからではないだろうか。本発表では、韓国人養子問題と喜劇的な韓国仮面舞踏のスタイルを結びつけた劇作家の意図を探り、その劇的效果についても論を展開する。またアジアの伝統文化をアメリカ演劇に導入する Shiomi の意図についても論じる。

5. ラスキンの内包するヴィクトリア朝の特質

塚田 英博 (城西大学)

ラスキンは『ヴェネツィアの石』(1851)で述べているように、自国イギリスの同時代の建築よりも、イタリア、特に、ヴェネツィアのゴシック建築を評価していた。ヴェネツィアの建築物に、宗教世界を体現した「崇高なグロテスク」を見て取っていたからである。このことから、ラスキンは同時代の建築家よりも古い時代の職人を評価していたことになり、当時のイギリスの潮流から、ラスキンが孤立していたような印象を与える。だが、ラスキンが中世キリスト教的な世界に傾倒していくことは、ラスキンの孤立を深めるのではなく、むしろその時代のイギリスの状況との同調を示すものなのである。本発表では、ラスキンの建築観と当時の雑誌等を検討することで、ヴィクトリア朝の特質を浮かび上がらせていく。

6. カントリーソング・フォークソングと Eudra Welty の作品に見る狂気と暴力と死

田中 健二 (摂南大学)

1930年代、1940年代、1950年代のアメリカ音楽とアメリカ南部小説を対象として、そこに描かれる人間の狂気、暴力、そして死について考察する。この時代のカントリーソング・フォークソングは現代と違って、event song と呼ばれる大きな事故や殺人事件のような死を扱った歌が存在する。また当時の南部地域の貧しさから子供の悲惨な死を歌う作品もある。男女間の愛憎から発展して妻殺し、恋人殺しをリアルに歌うものもある。単純な愛の歌をしのぐほどである。そしてこれらとほぼ同時代のアメリカ南部作家である Eudra Welty の作品から Powerhouse を取り上げる。Powerhouse は仕事場で妻の自殺を知る。妻の自殺はある男の暴行によるもので、Powerhouse はその怒りを仕事であるピアノ演奏の場で爆発させようとするが、完全燃焼できない。作品中に出てくるブルーズ曲の歌詞をその道しるべとして、小説が描く暴力の世界と Powerhouse の心を読み解きたい。

7. ヘンリー・ジェームズのニューヨーク版と作者像

川口 淑子 (名城大学)

ヘンリー・ジェームズが晩年に手がけ、通常ニューヨーク版と呼ばれる作品集は、問題点と注目すべき特徴を備えている。この時代、コレクターズ・アイテムとして作家の全集が多く出版されていたが、ジェームズのニューヨーク版は、典型的な全集の型からは幾分外れるものである。この作品集は、著作権の問題のため再発行ができない作品があったことなどから、全集に近い選集として出版された。そして、この版の発行の際には、作品の選択や多大な加筆修正、あるいは挿入する写真への大変なこだわりによって、理想的な作者像を作り直す作業が行われたと考えられる。今回の発表では、『ある婦人の肖像』などの加筆修正の例も紹介しながら、このニューヨーク版の制作方法を追い、その特性を再確認する。

8. 英語読解における文処理と談話処理に関する研究 後置談話情報は統語的な曖昧性を解消できるのか

寺内 正典 (法政大学)

飯野 厚 (清泉女学院短期大学)

本研究の主な目的は、日本人英語学習者が英語読解という認知的に極めて高次の言語情報処理、特に、袋小路文 (garden-path sentence) などに代表される統語解析 (syntactic parsing) が困難とされる英文の文処理 (sentence processing) あるいは談話処理 (discourse processing) を遂行する場合に、文処理方略や談話処理方略は、どのようなプロセスを経て、またどのような原理に基づいて遂行されるのかについて解明を試みることにある。

特に今回の研究発表では、習熟度の異なる日本人英語学習者を被験者とし、袋小路文などの文処理において統語処理の破綻 (syntactic processing breakdown) をきたした被験者は、後置談話情報を提示することによって、どのようにして統語的な曖昧性 (syntactic ambiguity resolution) や統語的な複雑性 (syntactic complexity) の解消を遂行しうるのか、あるいは後置談話情報にもかかわらず再分析が適切に機能せずに、再度、統語処理の破綻に陥ってしまうのか、またそれらの原因としてどのような要因が内在するのかを質的分析データからも考察していきたい。

9. Louise Erdrich の小説にみられるイノセンスについて

鶴谷 千寿 (富士常葉大学)

ネイティブアメリカン文学の代表的な作家である Louise Erdrich の小説には必ず 赤ん坊が登場する。この赤ん坊は単なる登場人物の一人として描かれているだけではない。それはアメリカ的なイノセンスとも言うべき純粋、無垢、公平、誠実、正義、真実ということを強調するものである。このアメリカを象徴するものとして赤ん坊を登場させ、アメリカンインディアンがヨーロッパ系アメリカ社会へ影響され同化されていくという問題を示唆している。以上のことから Erdrich がなぜ赤ん坊を登場人物として描いているのかを述べたい。さらに、同様に彼女が擬人化された登場人物や幽霊を用いて、アメリカのイノセンスを描いていることも述べたい。

編集委員会 (担当: 上野和子理事) から投稿募集のお知らせ

当学会の紀要『英米文化』第36号の原稿締め切りは10月末日です。

投稿原稿は、担当者上野和子(〒154-0017 東京都世田谷区世田谷3-22-21)まで

お送りください。なお、投稿規程が平成17年2月2日付けで改定されましたので、以下に付記します。

紀要『英米文化』投稿規程(平成17年2月2日)

< 投稿規程 >

1. 本誌は、英米文化学会の機関誌であり、原則として一年に一回発行する。
2. 投稿原稿は、英語文化における文学、文化、語学、英語教育などの論文とし、未発表のものに限る。ただし、学会で口頭発表したものについてはその限りではない。その旨を明記した注を、表紙1頁に入れること
3. 投稿資格 本学会員とし、投稿する当該年度までの会費を完納している者に限る。
4. 応募締め切り 毎年10月末日までに、原稿3部と、記録媒体に入れたファイルならびに略歴(所属学校・機関、研究分野、主要研究テーマ)を学術担当までに送付すること。
5. 原稿掲載の可否 学術委員会による査読を経て決定する。
6. 編集、校正は、編集・学術委員会にて行なう。執筆者校正は二校までとする。初校は一週以内、再校は3日以内に返送すること。期限を過ぎても返送されない場合に、学術委員会は掲載を断る権利を有する。
7. 上記以外の案件については、理事会の判断が優先される。

< 執筆要項 >

1. 長さ・形式 和文論文は12,000から16,000字数の間にまとめる。A4用紙に38字×25行、フォント12で打ち出す。英文論文も4,000から5,000語数を目安とし、A4用紙に65字×25行とする。
2. 和文論文には、英文表題をつけること。応募論文は、論文の筆署名、所属名(非常勤の場合は(非)、大学院生の場合は(院)と付記)、論文題名、口頭発表に関する注記、謝辞などは表紙にのみ記載し、論文第一ページ以降は題名と本文のみとする。なお、日本名のローマ字表記は原則として姓名の順にする。例 山田太郎 YAMADA Taro
3. 英文・和文の論文は共に、200語程度の英文のAbstractをつける。英文論文については、専門職によるネイティブ・チェックを受けた後に投稿すること。

4. 本文への注釈

- a) 注は本文の記述順にアラビア数字を附し、後注とする。
- b) 外国の人名、書名などは、初出の箇所日本語の後にマル括弧付で、綴りを併記する。書式の細部に関しては、『MLA新英語論文の手引き』(北星堂)の最新版に遵うものとする。

5. 提出する原稿には、CD、DVD、フロッピーなどいずれかを添付する。

6. 執筆者負担金は『英米文化』出版後、財務委員会で負担額を算定し、執筆者に通知する。執筆者には、掲載誌5部と抜き刷り50部を進呈する。負担金は一頁につき2500円である。ただし、始めの3頁は無料とする。

以上

財務（担当：山根正弘理事）より収支会計報告と予算案承認報告

6月11日、例会後の臨時総会におきまして、平成16年度収支会計報告と平成17年度予算案が承認されました。なお、会計監査は6月1日、山下信一・佐野榮三郎両先生により厳正に行なわれました。予算案の遂行のためにも、年会費（5,000円）の納入をお願い致します。納入状況等についてのお尋ねは、財務担当の山根(Masahiro Yamane@ses-online.jp)までお寄せ下さい。以下に、承認されました会計報告、予算案を掲載いたします。

平成16年度英米文化学会収支会計報告書

平成17年6月11日
財務担当理事 大東俊一

自 平成16年4月1日
至 平成17年3月31日 単位：円

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	509,040	事務局費	279,973
学会費	1,211,000	学術委員会運営費	750,218
学会誌(33号)掲載料	543,000	広報費	279,419
印税	1,481,708	渉外費	5,000
学会基金より	2,023,530	分科会運営費	69,860
雑収入	30,114	大会運営費	251,806
		例会運営費	23,037
		理事会運営費	91,568
		理事會運営費	5,000
		翻訳特別プロジェクト費	2,202,660
		出版助成費	113,400
		サーバー賃借料	253,439
		予備費	1,473,012
		次年度繰越金	
合計	5,798,392	合計	5,798,392

平成17年度英米文化学会会計予算案

平成17年6月11日
財務担当理事 山根正弘

自 平成17年4月1日
至 平成18年3月31日

単位：円

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	1,473,012	学術委員会運営費	750,000
学会費	1,100,000	大会運営費	250,000
学会誌(35号)掲載料	302,500	例会運営費	50,000
印税	600,000	分科会運営費	120,000
雑収入	50,000	理事会運営費	120,000
		評議員会運営費	80,000
		出版助成費	1,300,000
		翻訳特別プロジェクト	100,000
		広報費	150,000
		出版担当費	20,000
		IT担当費	50,000
		事務局費	250,000
		サーバー賃借料	113,400
		予備費	172,112
合計	3,525,512	合計	3,525,512

事務局（担当：大東俊一理事）より新入会員・住所変更のご紹介

【新入会員】

省略

【住所変更】

省略

英米文化学会会報 第64号 編集/発行：英米文化学会 編集責任者：佐野潤一郎
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込 1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内
Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito@SES-online.jp

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>